教育委員会１０月定例会
その他（２）

令和５年度「全国学力・学習状況調査」の結果と分析について

１　調査の概要と目的

令和５年４月、令和５年度全国学力・学習状況調査が、全国の小学校６年生と中学校３年生を対象に実施されました。この調査は、これまでの教育活動や教育施策の成果と課題等を把握・検証し、今後の教育活動に生かすことを目的としています。

なお、本調査で測定できるのは学力の特定の一部分であること、学校における教育活動の一側面であることが、国の調査実施要領で謳われています。

２　実　施　状　況

（１）調査実施日　令和５年４月１８日（火）
英語「話すこと」調査の実施日：令和５年４月１８日（火）～５月２６日（金）

（２）調査内容

ア　児童生徒に対する調査

(ｱ)教科に関する調査（小学校：国語及び算数、中学校：国語、数学及び英語）

①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等

②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

(ｲ)生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※オンライン方式による調査

中学校英語「話すこと」調査及び児童生徒質問紙調査（一部）について、児童生徒が活用する ICT 端末等を用いたオンライン方式により実施

イ　学校に対する質問紙調査

学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査

（３）実施校数　　小学校　３５校　　中学校　１９校

（４）実施人数　　（単位：人）

	国語	算数・数学	英語(聞くこと・読むこと・書くこと)	質問紙
小学校６年生	3,729	3,727		3,734
中学校３年生	3,280	3,281	3,279	3,289

※話すこと調査の人数は、中３英語の数字に含まれません。

３　平均正答率一覧表

（１）藤沢市立小学校平均正答率　　（単位：％）

	国語	算数
全国　　（公立）	６７	６３
神奈川県（公立）	６６	６３
藤沢市　（公立）	６２	６２

（２）藤沢市立中学校平均正答率　　（単位：％）

	国語	数学	英語(聞くこと・読むこと・書くこと)
全国　　（公立）	７０	５１	４６
神奈川県（公立）	７０	５２	５０
藤沢市　（公立）	７０	５５	５２

※全国の平均正答率は、国から提供されたデータの小数点第一位を四捨五入した数値である。

※国立教育政策研究所の令和５年度全国学力・学習状況調査報告書には、「全ての都道府県（公立学校）が全国の平均正答率の±１０％の範囲内であり、大きな差は見られない。」と表記されている。

４　教科に関する調査結果の内容について

教科に関する調査結果の特徴は「おおむね理解していると思われる内容」と「課題があるとみられる内容」で構成しています。これらは次の３点のうち、いずれか１つまたは複数に該当する内容を取り上げているものです。

① 本市の正答率に着目して、特に取り上げてさらなる向上を目指すべき内容である、または、課題となる点としてとらえ、授業や指導法の改善から学力の向上を図る内容

② 本市の解答率に着目して、解答ができなかった割合（無解答率）が取り立てて高いと思われる内容

③ 国立教育政策研究所の調査報告書の表記から、公立学校と全国の平均正答率について、±１０％の範囲内は大きな差ではないという見解をもとに、正答率が±１０％の範囲外となる内容

各教科の詳細は、「５　各教科に関する調査結果の特徴と授業改善のポイント」において、「おおむね理解しているとみられる内容」「課題があるとみられる内容」「課題に対する改善の手立て」の順に記載しています。

５　教科に関する調査結果の特徴と授業改善のポイント

【小学校　国語】

＜おおむね理解しているとみられる内容＞

□送り仮名に注意して、漢字を文の中で正しく使うこと

□目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約すること

＜課題があるとみられる内容＞

■目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめること

■日常よく使われる敬語を理解すること

■文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること

■図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること

＜課題に対する改善の手立て＞

〇話を聞いて自分の考えをまとめる際には、話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることが重要です。相手が自分に伝えたいことや、自分が求めている情報などを明確にして聞き、話し手の考えと自分の考えの共通点や相違点を整理したり、共感した内容や納得した例を取り上げたりして、自分の考えをまとめることを指導すると効果的です。

〇日常生活の中で相手や場面に応じて適切に敬語を使うことに慣れることが大切です。話したり聞いたりする活動を通して、敬語の使い方について理解できるようにしたり、学校行事や来客を見据えがあったときに敬語の使い方を確認したりするなどして指導する重要です。

〇文章を読んで自分の考えをまとめるには、文章の内容や構造を捉え、精査・解釈しながら考えたり理解したりしたことに基づき、既有の知識などと結び付けて自分の考えを形成することが重要です。そのためには、複数の資料を読んで理解したことを整理したり、整理したことの中から既有の知識などに結び付くことを考えたりしながら、自分の考えをまとめるといった学習を取り入れ、理解したことと考えたこととの関係が分かるようにまとめることを指導すると効果的です。

〇自分の考えを分かりやすく伝えるためには、図表やグラフなどを用いて、書き表し方を工夫することが大切です。必要に応じて、教師が、図表やグラフなどを用いたモデルとなる文章を提示することで、図表やグラフを用いると自分にとっても考えを深めやすく、相手にとってもよく理解できるものになることを実感できるように指導すると効果的です。

◇全体的な傾向として無回答の多さが目立ちました。単純な知識のアウトプットではなく、児童によっては複数の本や資料を読むことに時間がかかってしまい、書かれている内容を捉えることが難しい場合が考えられます。そのような場合には、〔思考力、判断力、表現力等〕の「構造と内容の把握」に関する事項や、〔知識及び技能〕の「音読」に関する指導事項と関連させ、声に出して読むことで書かれている内容を大づかみに捉えることができるようにしたり、教師が一緒に読んで児童の理解を助けたりして指導すると効果的です。

【小学校　算数】

＜おおむね理解しているとみられる内容＞

□伴って変わる二つの数量について、表から変化の特徴を読み取り、表の中の知りたい数を求めること（変化と関係）

□伴って変わる二つの数量の関係が、比例の関係ではないことを説明するために、表の中の適切な数の組を用いること（変化と関係）

□正方形の意味や性質について理解すること（図形）

＜課題があるとみられる内容＞

■正三角形の意味や性質について理解すること（図形）

■高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述すること（図形）

■（２位数）÷（１位数）の筆算について、図を基に、各段階の商の意味を考えること（数と計算）

＜課題に対する改善の手立て＞

○目的の図形をつくるために、どのような操作をすればよいか、図形の意味や性質を基に、見通しを立てることができるようにすることが重要です。指導に当たっては、例えば、本設問のように、実際に正三角形や頂角の大きさが 120°の二等辺三角形をつくる活動が考えられます。

○三角形の面積を求めるために必要な底辺と高さの関係に着目し、三角形の底辺や高さと面積の関係を基に面積の大小を判断できるようにすることが重要です。指導に当たっては、例えば、平行な直線にはさまれた底辺が等しい、二つの平行四辺形や、二つの三角形の面積を比べる活動が考えられます。

○筆算を具体物や図と関連付けて考察したり、具体物の操作や、図で考えた結果を式に表したりすることで、筆算を式と関連付けて考察できるようにすることが重要です。指導に当たっては、例えば、除法の筆算の手順を具体物や図に表したり、式に表したりする活動が考えられます。

◇全体としては、図形の構成の仕方を観察して図形について判断する問題において正答率が低い傾向にありました。図形の学習では、図形を構成する要素や構成する要素の間の関係に着目して図形を観察したり、操作したりする活動を通して、図形の意味や性質を見いだしたり、それらの操作について、図形の意味や性質を基に考えたりできるようにすることが大切です。例えば、紙を折ったり切ったりすることによってできた図形だけでなく、円の中心と円周上の２点を結んでかいた三角形や、合同な図形を写し取ってかいた対称な図形、図形を敷き詰めてできた模様などを観察することで図形の意味や性質を見いだしたり、既習の図形の意味や性質と自分が行った操作を結び付けてできた図形を弁別したりする活動を行うなど、工夫が必要です。

【中学校　国語】
＜おおむね理解しているとみられる内容＞
□目的や場面に応じて質問する内容を検討すること
□事象や行為、心情を表す語句について理解すること
□文章の中心的な部分と付加的な部分について叙述を基に捉え、要旨を把握すること

＜課題があるとみられる内容＞
■読み手の立場に立って、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えること
■文脈に即して漢字を正しく書くこと
■文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えること

＜課題に対する改善の手立て＞
〇書いた文章を推敲する際には、伝えようとすることが伝わるように、読み手の立場に立って、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるように指導することが引き続き大切となります。指導するにあたっては、例えば、推敲する前と後の文章を比較し、書き換えた理由や意図を説明する学習活動が考えられます。その際、叙述の仕方などを直したことで、伝えようとすることが十分に書き表されているかなどを、読み手の立場に立って確かめることが重要となります。
〇漢字の指導においては、字体、字形、音訓、意味や用法などの知識を習得し、文脈に即して漢字を読んだり書いたりすることができるように指導することが大切となります。指導に当たっては、文章の中ばかりではなく、「Ａ話すこと・聞くこと」の学習の中や、他教科等の学習や日常の会話の中でも漢字の書きについて意識するよう指導することが大切です。また、実際に書く活動を通して、漢字を正しく用いる態度と習慣とを養うことも重要となります。その際、必要に応じて辞書を引くことを習慣づけることが有効となり、１人１台端末等を活用して文字を入力する際にも、漢字がもつ意味に留意して、適切に選択する力を養うことが重要です。
〇生徒が古典との距離を縮め、古典の世界に親しむためには、古典の現代語訳や古典について解説した文章などを教材として適切に取り上げ、生徒自身が古典の楽しみ方を見いだすことができるよう指導することが大切となります。指導に当たっては、例えば、教科書に記載されている現代語訳だけでなく、中学生が楽しめるような現代語訳（例えば自分たちが普段使っている言葉に近い言葉を使った現代語訳）などを取り上げ、文章の構成や展開、表現の効果などに着目して工夫されているところを考える学習活動などが考えられます。その際、古典の原文と比較したり、関係づけたりすることで、古典の原文やその作品の世界に生徒の興味・関心が向かうよう指導することが大切です。
◇思考力、判断力、表現力を問うような課題に無回答率が高い傾向が見られました。ある話題について自分の考えとその理由を書いたり、考えを整理しまとまりのある文章を書いたりする問題で無回答率が高い結果がみられました。日々の言語活動の中で、様々な目的・場面・状況を設定し、主体的に考えて表現する力をつけることが重要です。

【中学校　数学】

＜おおむね理解しているとみられる内容＞

□数と整式の乗法の計算をすること（数と式）

□目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明すること（数と式）

□問題場面における考察の対象を明確に捉えること（数と式）

＜課題があるとみられる内容＞

■図形の性質を考察する場面において、事象を数・量・図形等に着目して考察することや、空間における平面が同一直線状にない３点で決定されることを理解すること（図形）

■複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明すること（データの活用）

■ある事象が成り立つことを構想に基づいて証明すること（図形）

＜課題に対する改善の手立て＞

〇身の回りにある事象から、空間において平面が一つに決まる条件を見いだし、実感を伴って理解することができるように指導することが大切です。指導にあたっては、カメラを固定する「一脚」は支えがないと安定して立たないが、「三脚」は支えがなくても安定して立つことを取り上げ、「三脚が、安定して立つことができるのはどうしてか」といった身の回りにある事象から問題を設定し、その理由を考察する活動を設定することが考えられます。

〇日常生活や社会の事象を題材とした問題などを取り上げ、統計的に問題解決することができるように指導することが大切です。その際、問題を解決するために計画を立て、必要なデータを分析し、データの分布の傾向を捉え、その結果を基に批判的に考察し判断するという一連の活動を充実させることが大切です。指導にあたっては、自分たちが住む地域の黄葉日の傾向を調べるため、過去６０年分の記録をまとめたデータをインターネットなどを利用して収集し、分析する場面を設定することが考えられます。具体的には、黄葉日が以前と比べてどのような傾向にあるのかを調べるために折れ線グラフに表したり、１５年ごとの４つのまとまりに分けて、箱ひげ図に表したりする場面を設定することが考えられます。

〇事象が成り立つことを証明することができるようにするためには、構想を立て、それに基づいて仮定から結論を導く推論の過程を数学的に表現できるように指導することが大切です。指導にあたっては、２直線が平行であることの根拠となる事柄を捉え、その事柄を与えられた条件から導く過程を考えるといった構想を立てる活動を取り入れることが考えられます。

◇全体としては、問題解決の過程や結果を振り返って考え、成り立つ事柄を見いだし、説明する問題において正答率が低く、無解答率が高い傾向にありました。指導にあたっては、推論の過程を振り返る活動やある命題が成り立つ場面の条件を考察するなどの活動が考えられます。また、協働的な活動を通して、生徒同士が多様な考え方を認め合う場面を設定することも重要です。

【中学校　英語】

＜おおむね理解しているとみられる内容＞

□ある状況を描写する英語や、ある場面における会話を聞き、情報を正確に聞き取ること

□日常的な話題について、目的に応じて英語を聞き、必要な情報を聞き取ること

□情報を正確に読み取ること

＜課題があるとみられる内容＞

■日常的な話題について、短い文章の概要を捉えること

■社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書くこと

■日常的な話題について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書くこと

＜課題に対する改善の手立て＞

〇文章を読んで概要を捉えるためには、段落内の文と文との関係を読み取りながら、各段落の主な内容を捉えることが重要です。言語活動としては、文章全体を読んだ上で、時系列に情報を整理する活動や、接続詞に注目させながら文章の流れを理解したりキーワードを拾い、全体としての内容をまとめたりする活動が考えられます。なお、説明文では各段落の主な内容を集めたものを概要として捉えること、物語では時系列であらすじを概要として捉えることのように、題材に応じて様々な概要の捉え方を指導することが必要です。

〇社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書く際には、読み手として主体的に考えたり、判断したりしながら理解したことを基に、目的・場面・状況に応じて表現すること重要です。言語活動としては、教科書に取り上げられている話題に関する自分の意見や感想を書く活動、また、他教科でも扱われている自然環境等の話題に関して読んだ内容を踏まえて、感想、賛否やその理由などを書く活動が考えられます。そして、書いた英文が目的･場面･状況に応じ適切な内容になっているかを指導することが必要です。

〇日常的な話題について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書くためには、書く内容を想起できるようにすることや、正しく伝えるために語や文法事項等を理解して文章を書くことが出来るように指導することが必要です。また、説明文を書く際には、「主題とその具体例」、意見文を書く際には、「最も伝えたいこととその理由」など、目的に応じて文章構成を判断するように指導することも大切です。言語活動としては、身近な話題や体験について、メールや日記、レポートなど様々な形式で、目的・場面・状況に応じて文章を書く活動が考えられます。

◇ある話題について自分の考えとその理由を書いたり、考えを整理しまとまりのある文章を書いたりする問題で無回答率が高い結果がみられました。また、聞くことや読むことの問題では、正確に聞き取ったり読み取ったりする問題より、必要な情報、概要、要点を捉える問題で正答率が低い傾向が見られました。日々の言語活動の中で、様々な目的・場面・状況を設定し、それらに応じて思考し適切に判断する力や、主体的に考えて表現する力をつけることが重要です。

６　児童生徒質問紙調査に関する調査結果の特徴と改善のポイント

（１）児童生徒質問紙調査に関する調査結果（学習に関連する項目を一部抜粋）単位：％

	質問項目		小学校		中学校	
			藤沢市	全国	藤沢市	全国
基本的生活習慣等	朝食を毎日食べている		95.4	93.9	92.6	91.2
	就寝時刻が毎日ほぼ同じである		80.5	81.0	74.2	78.0
	起床時刻が毎日ほぼ同じである		89.3	90.5	89.3	91.3
自己有用感、幸福感等	自分には、よいところがある		85.0	83.5	76.8	80.0
	人の役に立つ人間になりたいと思う		96.0	95.9	92.2	94.6
	普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがある		92.1	91.0	85.8	86.8
学習習慣、学習環境等	家で、自分で計画を立てて勉強をしている		67.9	70.7	52.5	55.0
	平日に学校以外で、一日どのくらいの時間勉強をするか	２時間以上	30.4	25.6	46.6	33.7
		１～２時間	23.3	31.5	25.2	32.1
		３０分～１時間	24.0	26.9	13.7	18.0
		３０分より少ないか全くしない	22.0	16.0	14.5	15.9
	読書は好きである		71.0	71.8	68.3	66.0
	学校の授業以外に、平日、どれくらいの時間読書をするか	１時間以上	19.6	18.5	13.2	13.8
		全くしない	25.8	24.5	35.8	36.8
地域や社会	今住んでいる地域の行事に参加している		53.6	57.8	28.4	38.0
ICT を活用した学習状況	授業で PC・タブレットなどの ICT 機器をどの程度使用したか	ほぼ毎日	18.5	28.2	19.8	28.1
		週１回以上	64.2	58.1	63.9	59.4
		月１回以上	12.3	9.8	13.6	9.6
		月１回未満	4.9	3.7	2.6	2.7
	学習の中で ICT 機器を使うのは勉強の役に立つと思う		94.4	95.1	93.0	93.3
主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善	課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた		79.5	78.8	80.8	79.2
	自分の考えを発表する機会では、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表した		72.9	63.7	75.6	62.1
	級友との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができた		81.2	81.8	77.5	79.7
総合的な学習の時間、学級活動	総合的な学習の時間では課題を立て、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる		67.0	74.8	70.8	72.6
	学級生活をよりよくするため、学級活動で話し合い、互いの意見を生かして解決方法を決めている		65.9	77.2	74.1	77.9
学習に対する興味・関心や授業の理解度等	国語の勉強は好きだ		59.4	61.5	58.7	61.4
	国語の勉強は大切だ		93.6	94.2	90.2	92.4
	国語で学習したことは将来、社会に出たときに役に立つ		91.6	92.8	87.7	88.7
	算数・数学の勉強は好きだ		61.5	61.4	58.2	56.7
	算数・数学の勉強は大切だ		92.9	94.2	81.6	85.0
	算数・数学で学習したことは将来、社会に出たときに役に立つ		92.6	93.3	72.5	75.8
	英語の勉強は好きだ		68.0	69.3	57.0	51.9
	英語の勉強は大切だ		92.2	91.3	91.1	88.0
	英語で学習したことは将来、社会に出たときに役に立つ				90.1	87.5

※児童生徒質問紙にある質問項目のうち、本市の児童生徒の学力と関連のある質問項目について取り上げています。

※児童は「小学生」、生徒は「中学生」を表しています。

※時間数や頻度等を問う設問を除いて、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した比率を合計しています。

（２）特徴及び改善のポイント

「（１）児童生徒質問紙調査に関する調査結果」の中から、今年度本市の特徴として考えられる事項及び検討課題と判断した３項目（「学習習慣・学習環境等」「ＩＣＴを活用した学習状況」「総合的な学習の時間・学級活動」）に焦点をあて、分析を行いました。

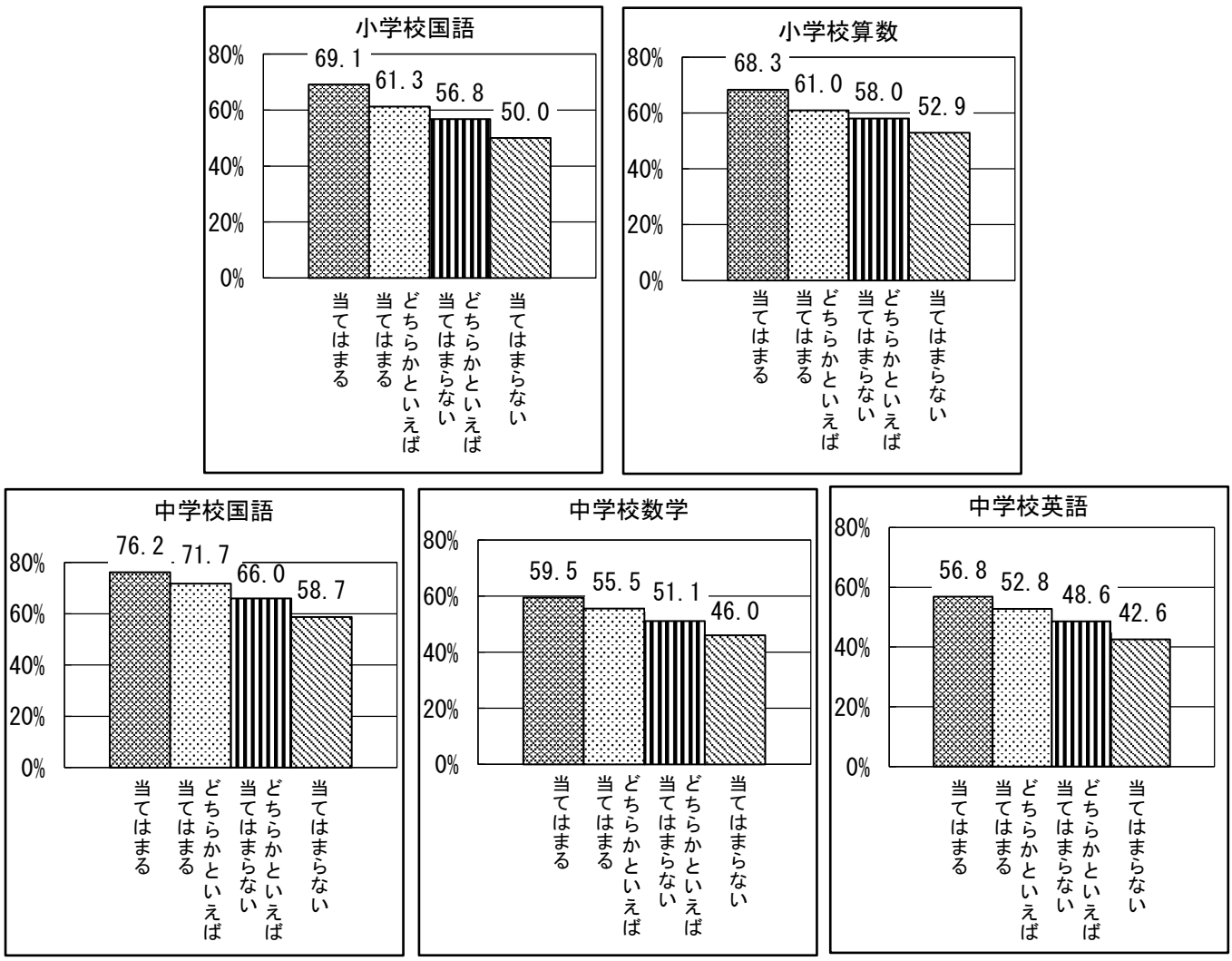
①学習習慣・学習環境等

質問項目「読書は好きである」に、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合は小学校７１．０％、中学校６８．３％でした。この項目と小学校及び中学校各教科の正答率とのクロス集計を見てみると、図１のように、相関関係があると推測されます。このことについては文部科学省、国立教育政策研究所による令和５年度全国学力・学習状況調査「報告書」には、「読書が好きな児童ほど、教科の平均正答率が高い傾向が見られる」と示されています。

一方で、「平日に学校の授業以外でどのくらいの時間読書をするか」の質問項目において、小学校で２５．８％、中学校で３５．８％の児童生徒が「全くしない」と回答しています。

このことを受け、今後もさらに電子図書サービスの活用など読書環境の充実を図るとともに、学年に応じて適切に読書活動を取り入れることが効果的だと思われます。

図１**「読書は好きである」の回答と国語科、算数・数学科、英語科調査の正答率との関係**



②ＩＣＴを活用した学習状況

ＩＣＴを活用した学習状況における質問項目「学習の中でＩＣＴ機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」に、「役に立つと思う」「どちらかといえば、役に立つと思う」と回答した児童生徒の割合は９３％を超えています。

しかし、ＩＣＴを活用した学習状況における「授業でＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器をどの程度使用したか」の項目において、「ほぼ毎日」と回答した児童生徒は、２０％を下回りました。

ＩＣＴの活用については、文部科学省、国立教育政策研究所による令和５年度全国学力・学習状況調査の結果（概要）においても「個に応じた指導など、授業における様々な場面でＩＣＴ機器が活用されている」と報告されています。本市においても、今年度「藤沢市ＩＣＴ活用のてびき」を作成し、個別最適な学びや協働的な学びを一体的に充実するツールとして活用できるよう、各学校へ周知を図っています。また、本調査の課題でもあった算数・数学科の図形分野において、児童生徒が図形についての感覚を豊かにし、学習を深めたり、数学的活動の楽しさを実感したりできるようにする道具としてＩＣＴ機器の活用が一つの手段として示されています。

これらのことから、教育活動の中で効果的にＩＣＴ機器を取り入れることで、授業改善等に生かせると考えられます。

③総合的な学習の時間・学級活動

質問項目「総合的な学習の時間では、課題を立て、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる」、「学級活動で話し合い、互いの意見を生かして解決方法を決めている」では、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合は全国より低い傾向にあります。

総合的な学習の時間では、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を通して課題解決する力を育成することを目指しています。体験活動などを通して課題を設定し意識を持たせる活動や、必要な情報を収集したり、まとめたり表現したりする活動を行うことは、探究的な学習が進められ、課題解決する力へとつながります。

また、学級活動では学級や学校での課題について、話し合い活動等を生かして自主的、主体的に解決することを目指しています。学級や学校における諸問題をよりよく解決していくために児童生徒が自分ごととして話し合い、合意形成を図る活動等を行うことで、より意思決定力や実践力の向上につながると考えられます。

このような学びを重ねることが、児童生徒がよりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力の育成や、共生社会でよりよく生きる力を獲得することへつながるものと思われます。

（３）その他の項目について

①基本的生活習慣

基本的生活習慣における質問項目「朝食を毎日食べているか」、「起床時刻が毎日ほぼ同じであるか」については、「している」「どちらかといえば、している」の回答率が児童生徒ともに８９％を超えており、基本的生活習慣についてはおおむね身についていると考えられます。

②自己有用感・幸福感等

自己有用感等・幸福感等における質問項目、「自分によいところがあると思うか」において、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒は、小学校では８５％、中学校で７５％を超えています。また、「人の役に立つ人間になりたいか」「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがあるか」において「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒は８５％を超えています。

児童生徒が難しい課題にも自信をもって取り組み、意欲をもって学習や生活に臨めるように働きかけることは今後も大切なことです。同時に、個人それぞれの幸せや生きがいを感じるだけでなく、地域や社会全体が幸せや豊かさを感じられるものとなるためにも、学校・家庭・地域で協力して児童生徒の心を育んでいくことが求められます。

③地域や社会にかかわる活動の状況等

質問項目「今住んでいる地域の行事に参加しているか」では、小学校において 53.6％の児童が「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答しており、去年の調査より 7％以上増加しています。全国の調査においても同様の傾向が見られます。

今後も学校に地域で活躍している人をゲストティーチャーとして招き郷土・地域に関する学習を行ったり、家庭から地域行事への参加を促すような声かけをしたりするなど児童生徒が地域行事に参加しやすいような体制を構築することが望まれます。

④学習に対する興味・関心や授業の理解度等

学習に対する興味・関心や授業の理解度等における質問項目においては、どの教科も高い水準を示しています。

一方で、国語、算数・数学、英語について「好き」「どちらかというと、好き」と回答する児童生徒の割合は、６０％前後にとどまっています。

文部科学省、国立教育政策研究所による令和５年度全国学力・学習状況調査「報告書」では、算数・数学及び英語においては「好きであると回答している児童生徒の方が平均正答率が高い傾向が見られる」とされています。

このことから、他教科も含め、児童生徒が教科学習を好きになれるような授業の工夫を考えていく必要があります。

７　今後の教育活動に向けて

令和３年の中央教育審議会答申においては、急激に変化する時代の中、学校教育には、児童生徒の資質・能力をより一層確実に育むための取り組みが求められています。児童生徒の多様化、教師不足の深刻化、加速度的に進展する情報化への対応の遅れなど、様々な課題を抱える中にあっても、義務教育９年間を見通した指導体制の構築を、教育委員会と学校が協力しながら、引き続き組織的に進めていくことが必要です。

同時に、デジタル教科書等の先端技術や教育データを活用できる環境の整備等による指導・支援の充実、校務の効率化が児童生徒の資質・能力の向上へとつながるように、児童生徒の学びや教職員を支える環境を整備していくことも大切となります。

このような方針のもと、本調査結果を今後の教育活動に生かすためには次のような取り組みが必要であると考えます。

（１）教育委員会・学校における今後の取り組み

ア　今年度の全国学力・学習状況調査の結果について、校長会等で各学校に周知します。また、教育委員会のホームページで公開し、広く保護者・市民の皆様へも情報提供します。

イ　本市の児童生徒は、自分の考えとその理由を書く問題や、根拠にもとづいて説明する問題について課題がみられました。思考力・判断力・表現力等に係る力の育成を目指し、授業における指導方法の改善を目指した研修講座や学習活動における工夫や取り組みに関する研修講座、指導主事による学校訪問における指導助言等により、教員のスキルアップを図ります。

ウ　調査の結果から、児童生徒の読書活動と国語、算数・数学、英語の正答率に相関関係があることが分かりました。児童生徒が本に関心を持つ機会を増やす働きかけを行うとともに、読書活動を積極的に取り入れることができるよう、電子図書サービスを活用するなど学校図書館のさらなる充実を図り、読書活動の推進に取り組んでまいります。

エ　児童生徒への質問紙調査では、「学習の中でＰＣ・タブレットなどのＩＣＴを使うのは勉強の役に立つ」という回答の割合は高く、ＩＣＴの学習における効果を感じながら利用していることがうかがえます。今後もさらに教員がＩＣＴを効果的に活用するための情報発信や環境整備を充実させる必要があると考えます。また、授業における効果的な活用や個に応じた指導への活用、情報モラル教育の充実等、教育活動の中でＩＣＴ機器の活用について、研修の実施や指導主事による指導・助言、情報提供などを通して、充実を図ってまいります。

オ　探究的な見方・考え方を働かせて課題を解決する力や、学校における諸問題を自主的に解決していくための意思決定力を育むことが大切であると考えます。児童生徒一人ひとりの資質・能力の向上を図るため、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を目指し、研修を実施するとともに、指導主事が各学校への計画訪問や要請訪問を通して、指導・助言を行います。

（2）保護者の皆様へ

今、学校教育では、子どもたちが主体的に学習に取り組めるよう、日々の学習活動に取り組んでいます。豊かな情操や規範意識、自他の生命の尊重、自己肯定感・自己有用感、他者への思いやり、対面でのコミュニケーションを通じて人間関係を築く力、困難を乗り越え、ものごとを成し遂げる力、公共の精神の育成、体力の向上、健康の確保を図ることなどは、どのような時代であっても変わらず大切なことです。

その中で、自己有用感は、生きがいや人生の意義などの将来にわたる持続的な幸福を構成する要素でもあります。子どもたちが難しい課題にも自信をもって取り組み、意欲をもって学習や生活に臨めるよう、学校においても個に応じた支援を行っています。ご家庭でも、子どもが自分の思いをもって努力したり工夫したりしたことを認めること、さらに役割をもたせ活躍の場を意図的に増やしていくことなど、人と関わることの喜びや大切さに気付いていくことができるような働きかけを考えていただきたいと思います。

また、社会の在り方が劇的に変わる時代の中で、子どもたちが自分の考えを整理し、相手に伝える力を伸ばしていくことが必要だと考えます。ご家庭においても、コミュニケーションの機会を増やすことや、会話の中で子どもが考えを表現する機会をもつことが大切です。

今年度の調査から、朝食の摂取率や起床時刻については以前の調査とほぼ変わらず、基本的生活習慣がおおむね身に付いていることが分かります。家庭での生活習慣を整えることは、子どもたちが日々の充実した学校生活を送るうえで重要な要素の一つと考えられます。子どもたちが一日の生活リズムを意識し、見通しをもって行動できるよう、引き続き基本的な生活習慣の確立を図っていくことが求められます。

これからの時代を切り拓く子どもたちが、基本的な生活習慣や生活能力、人に対する信頼感、豊かな情操、他人に対する思いやり、基本的倫理観、自尊心や自立心、社会的なマナーなどを身につけられるよう、学校・家庭・地域で協力しながら、共に子どもたちの学びを育てていきましょう。